フォトピックス

▼大谷中学校区「おあしす通り」開通

大谷中学校区の「おあしす通り」が市内5番目として開通。3月2日に大谷小学校で関係者が集まり開通式が行われ、区内の小・中学生が作成した「おあしす」啓発看板が設置されました。

▼にぎわった「公民館まつり」

3月9・10日の両日、中央公民館と文化会館を会場に公民館まつりが開催され、日ごろの活動成果発表に多くの来場者がありました。

（撮影＝広報まちかどカメラマン　杉本鉄雄）

▶夢の超高速鉄道を体験

3月21日、山梨県都留市のリニア実験センターでリニアモーターカーの試乗会が行われ、市内小学生と保護者40人が超高速鉄道を体験しました。

まんまるあちゃん

野添（のぞえ）　将希（まさき）ちゃん

国分北、野添博文・和代さんの2男＝1歳

高橋（たかはし）　茉那（まな）ちゃん

杉久保、高橋竜哉・里香さんの長女＝1歳

濱島（はまじま）　未佑（みゆ）ちゃん

中新田、濱島匠・玲依奈さんの長女＝1歳

渡邉（わたなべ）　悠希（ゆうき）ちゃん

国分南、渡邉一彦・千代さんの長男＝1歳

塩澤（しおざわ）　俊輔（しゅんすけ）ちゃん

東柏ケ谷、塩澤慎一・こずえさんの長男＝1歳

荒川（あらかわ）　愛理（あいり）ちゃん

国分北、荒川三吉・亜矢さんの長女＝1歳

髙澤（たかざわ）　龍生（りゅうせい）ちゃん

国分南、髙澤陽一・枝美子さんの長男＝1歳

青木（あおき）　元寿（もとひさ）ちゃん

門沢橋、青木健・久美子さんの長男＝1歳

■　このコーナーに掲載を希望する方は

電話で広報広聴課へ。対象は、申込時点で満9カ月未満の赤ちゃんに限りますので、お早めにどうぞ。応募多数の場合は抽選のうえ掲載します。

海老名の春風景　写真募集

広報えびなに、みなさんが海老名市内で撮影した風景を掲載します。

▽募集写真　春の市内風景を撮影したカラープリントL判（サービス判）1人1点。ただし今春撮影したものに限ります（ネガ・ポジ・デジタルデータ、すでに雑誌などで発表されたものは応募できません）。

▽応募方法　写真裏面に撮影者の住所・氏名・電話番号・撮影日・撮影場所を記入し、5月10日（金）までに直接または郵送で広報広聴課へ。選考のうえ数枚を広報紙上で、また、紙面に掲載できなかった作品を市ホームページ上で紹介します。※応募作品は返却しません。1年を季節ごと4回に分けて募集します。以前応募された方も、季節ごとに1回応募できます。

問　広報広聴課。

今月から容器包装プラスチックの回収日が月4回になります

今月のプロフィル

平常心保ち時には笑顔でジャッジ

サッカーW杯日本人唯一の主審

上川（かみかわ）　徹（とおる）さん

5月31日から始まるサッカー2002年ワールドカップ（W杯）の主審に選ばれた、上川徹さん（中央在住・38歳）。世界から注目を浴びるこの大会で、ただ1人の日本人審判としてグラウンドに立ちます。

選手時代は日本リーグのフジタで主にFW（フォワード）として活躍。審判を始めたきっかけは引退を決めた平成3年、2年後のJリーグ開幕に向けた元選手による審判養成コースの1期生になったことです。「トップ選手としての寿命は短いけれど、審判なら大好きなサッカーに長い間かかわっていける。それも選手と同じ目の高さのグラウンドで」と話す上川さん。今年までに国際試合20試合やJリーグを含む500試合以上をジャッジしてきました。

普段は、日本サッカー協会に勤める上川さん。帰宅後や休日には、体力強化のため市内を走ってトレーニングしています。そして、疲れた身体をいやしてくれるのが、3人の子どもたちとのスキンシップ。「特にサッカーをしろとは言っていないのですが、長男はベルマーレのジュニアチームに所属しています。長女はサッカーはしてませんが、私が審判する試合をテレビで見てくれているみたい。2男はまだ小さいのでボール遊びぐらいかな…」と。

ワールドユース大会で（去年・アルゼンチン）

審判としてのモットーは「信念を持ち、公平にき然とした態度で接すること」。今までうれしかったことは、試合後に多くの選手たちから「ありがとうございました」と労をねぎらう握手を求められたこと。逆につらいことは、自分のジャッジが理解されず、審判ミスだとたたかれることだそうです。

W杯で主審をする試合は、3月下旬に韓国のソウルで行われる、セミナーやフィットネステストの結果をもとに、日本が所属するHグループ以外の試合が割り当てられます。「今まで学び経験してきたことをゲームに引き出し、平常心で試合に臨みたい。日本の審判のレベルは高いんだという誇りを持つことも忘れずに。それと、時には笑顔を見せながら楽しくやりたいです」と話す上川さん。W杯の〝もう一人の日本代表〟としてホイッスルが高らかに鳴り響くことでしょう。

編集後記

だれもが年を重ねていくことは、避けられない問題ですが、今回の取材に協力していただいた方々の熱心さに「活力」という言葉に年齢は関係ないということを改めて感じ、楽しい取材のひとときを過ごせました。ぜひみなさんも講座に参加してみてください。（大）